

# 出前講座報告書

開催日時	令和6年5月28日（火） 午後1時30分～ 午後2時50分		
開催場所	伊賀市議会 全員協議会室		
申請団体等名称	伊賀市農業委員会		
テーマ	農業農村等に関する意見交換会		
委員会名等	産業建設常任委員会		
出席議員	【委員長】山下典子、【副委員長】福岡正康、西田方計、川上善幸、上田宗久		
	近森正利、中岡久徳	記録者	福岡正康

## 【講座・意見交換等の主な内容、対応等】

### 1. 農業委員会委員の報酬の増額について

- 伊賀市の農業委員は24名・推進委員は54名である。今までは農地法第3条等の審査業務がメインであったが、現時点では業務量が増えてきた。毎月5日間の農地パトロール業務等とその業務に対しての報告書の提出。各地区で実施する地域計画を作成するための「協議の場」への参加。
- 他市の報酬と伊賀市の報酬を比較したらどうか。  
甲賀市、松阪市、名張市等の報酬を調査したが、比較すると確かに伊賀市の報酬は安い。私たちに続く人を考えた場合、議会でも議論が必要ではないか。増額を考える必要があるのではないか。

### 2. 主食米の買取価格について

- 今の農業の現状を考えると、多くの兼業農家が米作をしているが、義務感を乗り越えて歯を食いしばってやっている状況ではないか。また肥料や農薬等大変価格が上がっている。それに比べて米価の価格がなかなか上がらない。少し上がっても生産者に回ってくるのはわずかである。農業収入がこれだけ少ないと後継者がいない。私たちの年代以降が心配である。
- 大規模農家も、経営拡大はこれ以上は困難でないか。
- 米は主食であるので極端に値段を上げるわけにはいかない。消費量を増やす方法を考える必要がある。
- 伊賀市の米の価格はJAが中心に決まってきた。JA以外での販売ルートとのバランスを考えることも重要ではないか。
- 米の消費量を増やすために、小学校等に美味しい米を提供して、子どものころから美味しい米のPRが重要である。
- 議員として農林水産省にこのような声を届けていきたい。

### 3. 伊賀市農業委員会の女性委員の増加について

- ・昔は各地区に1名の農業委員がいたが、今は委員数が減少した。女性に今の農業を聞いてみる必要がある。
- ・どこの地域でも会議等に女性の参加を求めることは、なかなか難しい。女性同士で意見交換すると共感を覚えることがある。女性が集まって話をする場を増やす必要があるのでは。
- ・若い人と話をしてみると、考えることが私たちと少し違う。今、会議に集まってくる若い人はどうしても今の自分の経営の話が中心になって、「全員で市長のところに行って話をしようか。」というような、グループとして行動するような話にはなかなかならない。
- ・女性委員を確実に増やすには、各地区から一人ずつ女性推進委員を選出する方法がある。当然、各地区の考え方も重要になってくるが、そのような手法をとるのも一つの考え方である。

### 4. まとめ

#### ① 農業委員会委員及び農地利用最適化推進委員の報酬の増額・米の買取価格について

耕作放棄地が増加している伊賀市においても、農地をいかに守っていくのかが重要な課題である。本年度、食料・農業・農村基本法が改正され、食料安全保障の理念が新しく加えられた。その中で地域の農地を守る取組が、「人・農地プラン」から「地域計画」の策定に大きく変わってきた。その取組に農業委員等の役割が大変重要であり、委員の総数に対して求められている業務が増大している。農業委員の役割の困難性と業務量の増を共通認識とした。米の買取価格についても三重県・国へ働き掛けていきたい。

② 女性委員を増加するため、地域でいろいろ検討されている。女性農業者間の横のつながりも大変重要であり、いろいろ相談して進めていきたい。女性農業従事者のためのネットワーキングの機会の提供や、農業委員に必要なスキルや経験についての情報提供など、女性が活動しやすい環境づくりを進める必要性を認識することができた。

③ 産業建設常任委員会として市長に対し政策提言することとした。

伊賀市議会議長 様

令和6年9月17日

議会出现前講座実施要綱第11条第1項の規定により提出します。

(産業建設常任委員長) 山下 典子